

どこから見るかで変わる、 相場の景色

相

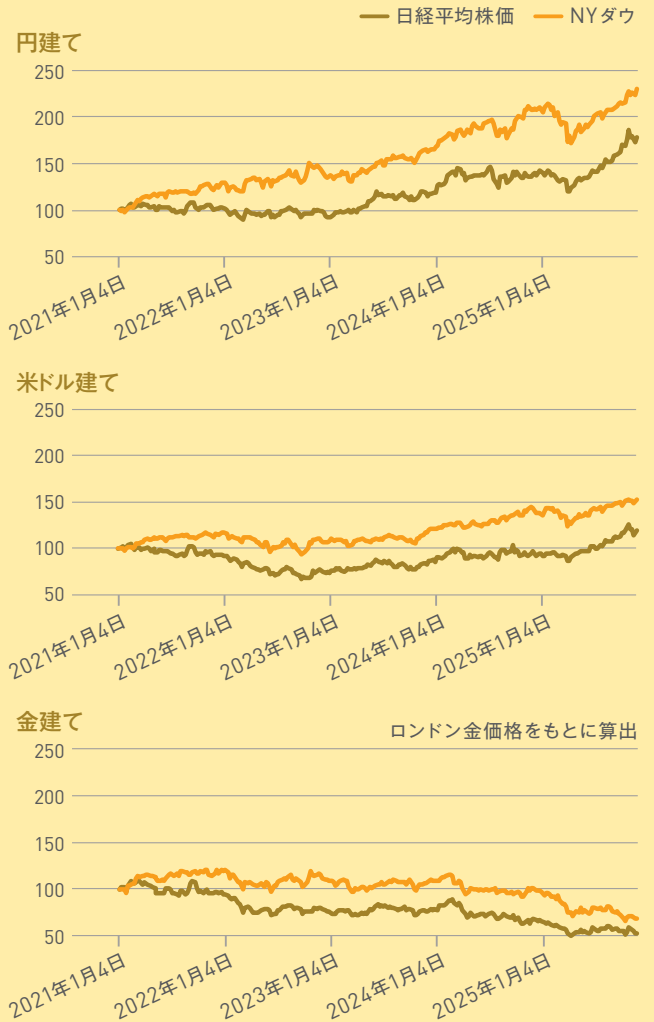
場を見る時に多くの人々が利用するのがチャート。様々な動きを感覚的に捉えることができる。ただし同じチャートを見ているようでも、立ち位置が変われば見え方は異なる。マーケットは世界に接続しており、日本株であっても取引主体は必ずしも日本人だけではない。海外投資家の視点、為替の影響、さらには資産価値の基準によって、異なる解釈が生まれることに留意が必要だろう。

例えば、NYダウと日経平均株価。ここ3年間勢いよく上昇している日経平均株価を米ドル建てで見ると、円安の影響で冴えない動き。2025年後半にようやく米国株に追いつきはじめたイメージだ。さらに、視点を変えて金価格で評価すると、ここ数年の株式市場は果たして好調と言えたのだろうか？との疑問すら浮かび上がる。こうした多層的な視点を持たずに運用戦略を立てることは、片目を閉じて走り出すようなものとも言えるかもしれない。

年末年始は2025年を振り返り、2026年を見据えるタイミング。運用戦略を考える上で重要なのは、単一の尺度にとらわれない柔軟な発想だ。当社は、日本と米国を代表する金融機関のジョイントベンチャーという特異な立ち位置を活かし、グローバルな視野とローカルな知見を融合した情報を提供している。相場の「見え方」を変えることは、投資判断の質の向上につながるはずだ。当社が発行する、為替や資産価値の多角的な分析を踏まえた最新レポートを、皆さまの次の一手にお役立ていただきたい。



■ 過去5年間の日経平均株価とNYダウ



三菱UFJモルガン・スタンレー証券の リサーチレポートを お客さまの投資にご活用ください

当社では国内株式や外国株式、為替、金利・マクロ経済等に関する豊富なレポートを取り揃えています。
2026年の相場見通しに関するレポートもご用意しています。
お取引店までお気軽にお問い合わせください。

